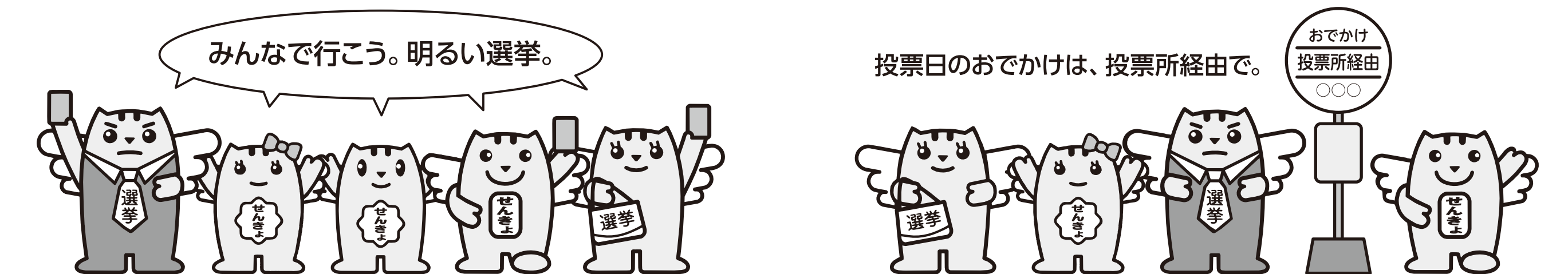


令和4年
3月6日執行

奥州市長選挙公報

奥州市
選挙管理委員会

	
奥州市市長候補者	
倉成 じゅん	
奥州市水沢字桜屋敷791番地 65歳	
「市民に寄り添う」奥州市の実現を公約	
◆寄り添う奥州会議：市民参加型の市長直轄プロジェクトチームの立ち上げ	
◆寄り添うデジタル改革実現	
・寄り添う医療改革：周産期医療の奥州市モデル構築	
・寄り添う教育改革：各地域の特性を生かした放課後教育「令和の寺子屋」	
・寄り添う公共交通：自動運転システムと共助型地区内交通の組み合わせ	
・寄り添う農業改革：スマート農業の導入促進及び小規模農業と里山環境を護る施策	
◆寄り添う奥州会議	
・この会議は市政の喫緊の課題解決のための市長直轄プロジェクトチームです。対象分野で専門性を発揮している民間企業の参加も検討し、最新情報と市民視点を重視したプロジェクトを立ち上げます。	
・プロジェクトチームの事務局は、若手職員を中心に運営し、将来中核となる職員を育成します。一方で、ベテラン職員の知見を活用し、到達目標と時間軸を設定することで、着実に問題解決を図っていきます。	
・最初に取り組むテーマは「周産期医療の奥州市モデルの構築」です。	
◆寄り添うデジタル改革実現	医療分野では、周産期医療領域で、大学病院の専門医と遠隔医療システムを構築すると同時に、そのシステムの運用に市内の産科医の先生方に主体的に関わっていただく奥州市モデルを構築いたします。市がサポートするのは、周産期・乳幼児医療センター（仮名）での助産師、看護師教育と民間病院からの派遣要請への対応、そして、市内民間病院の電子カルテ化推進を市がサポートすること、日常業務の負担を軽減することです。
教育改革	教育分野では、地区センターを活用した地域の歴史を学ぶ場を提供し、故郷の無形財産の価値を実感してもらいます。
公共交通	公共交通分野では、スマホを活用した自動運転バスの運行と市民参加型地区内交通の運用を進めます。
農業改革	最後に、農業分野は奥州市の主要産業であり、日本で唯一十年間で十%以上の成長を遂げた十兆円超市場の産業です。農林水産省が推進しているスマート農業の補助金事業を獲得すべく準備を進め、奥州市のモデル地区を創るとともに、国の新規就農者への就農支援交付金を活用した若手起業家の育成を図り地域の担い手不足を徐々に解消していきます。一方で、里山環境の維持に貢献している中山間地農業を継続するための補助制度も考えます。カナダインディアンは「自然は子孫からの借りものである」という言葉があります。農業分野では、未来に寄り添う発想が重要であると考えています。



未来へ、まっすぐ。

小沢昌記のプロフィール

東京経済大学経営学部卒 63歳
現在の職業／奥州市長 奥州市水沢在住

●第2代奥州市長〔現在3期目〕
●初代奥州市議会議員 ●旧水沢市議会議員
●水沢青年会議所第34代理事長など

1 貫く基本姿勢「協働のまちづくり」

「つながる」をキーワードに協働を進化
私たちの奥州市をさらに住み良いまちにいくために、市民の皆さんが積極的に協働に参画できるまちづくりを進めます。

2 貫く基本姿勢「行財政改革」

職員の活躍を力に、断固としたリーダーシップで「行財政改革」
丁寧に情報や説明を尽くしながら、今後、私たちの子や孫に負担をかけないよう積極的に取り組みます。

3 新たな強化戦略「将来も安心・安定の地域医療」

持続可能な体制構築は急務
集約ではなく、5つの施設を存続させようで効率的な連携を図り、持続可能な医療体制を構築します。水沢病院は建て替えを検討します。

4 新たな強化戦略「便利さが実感できるデジタル化(DX)」

自治体DXで業務改革！地域社会のデジタル化で市民サービス向上
利用者中心の行政サービス改革を行うため、デジタル化による社会変革の推進が急務となっており、だれでも便利さを実感できる体制づくりを進めます。

5 新たな強化戦略「地域の宝を活かすシティプロモーション」

農産品や伝統工芸品は奥州市の宝！市民一丸となって魅力発信
農産品や伝統工芸品は奥州市の大きな宝です。いかに全国そして世界に向けて魅力を発信していくか重要なポイントです。そのためには産業振興に力をいれ、奥州市独自の魅力を発信します。

詳しくはホームページの
マニフェストをご覧ください
<http://users.catv-mic.ne.jp/~ozawamasaki/>

デジタル化で
地域社会の
活性化

奥州市長候補者
小沢まっすぐ

当日投票所の見直しを行っていますので、投票所入場券に記載の投票所をよく確認してください。